（2） 今月のキーワード　「エンゲル係数」

日々の買い物で「食品の値上がりが続いているな」と実感される方も多いのではないでしょうか。その実感を裏付けるように、家計の消費支出に占める食料費の割合を示す「エンゲル係数」が 45 年ぶりの高水準を記録し、話題となりました。エンゲル係数上昇の背景について考えてみます。

【エンゲル係数とは】

エンゲル係数は、19 世紀のドイツの統計学者エルンスト・エンゲルが提唱した指標です。家計の総消費支出のうち、食料費（外食や酒類を含む）がどれだけの割合を占めているかを計算したもので、一般的に「生活が豊かになると、エンゲル係数は下がる（エンゲルの法則）」とされてきました。なぜなら、収入が増えても食べる量や質には限界があるため、住居や教育、娯楽など、他の支出の割合が増えるからです。

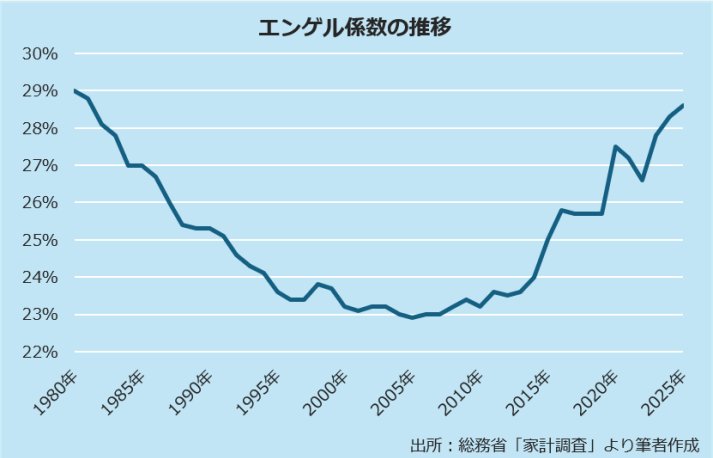
総務省が実施する家計調査においてエンゲル係数の計算に使われる金額は、物価の影響を除いた「実質」ではなく、実際に支払った金額ベースの「名目」です。つまり、生活水準が落ちていなくても、食品価格だけが値上がりすると、エンゲル係数は跳ね上がってしまいます。

【45 年ぶりの高水準】

今回の高水準をもたらした背景には、短期的な物価の波と、長期的な社会構造の変化という 2 つの側面があると考えられます。

最大の要因は、世界的な原材料高や円安を背景とした、歴史的な食料品価格の高騰です。2025 年の消費者物価指数（総合）は前年比＋3.2%の上昇でしたが、そのうち食料指数は同＋6.8%上昇しており、全体への寄与度のうち約 6 割を占めました。

ここでポイントとなるのが、食料品は「価格弾力性が低い」という点です。生活必需品である食料品は、高くなったからといって半分に減らすわけにはいきません。支出を削りにくいため、価格が上がった分だけそのまま食料費の総額が膨らみ、エンゲル係数を押し上げる要因となっています。



出所：総務省「家計調査」より筆者作成

2025年の前年比上昇幅が大きかった品目

品目	前年比（%）	品目	前年比（%）
うるち米A	67.9	しらぬひ	16.6
うるち米B	67.2	おにぎり	15.8
しょうが	58.9	じゃがいも	15.7
コーヒー豆	39.8	干ししいたけ	15.7
チョコレート	35.7	干しのり	15.6
無菌包装米飯	26.6	はくさい	15.1
ほたて貝	23.3	果汁入り飲料	14.6
ごぼう	21.4	チューインガム	13.9
さくらんぼ	19.2	コーヒー飲料B	13.4
果実ジュース	17.1	ジャム	13.2

出所：総務省「消費者物価指数」より筆者作成

【生活スタイルの変化】

また、現代特有の要因として、単身者や共働き世帯の増加、高齢化の進展などによる「調理の外部化」があります。惣菜や弁当を買う「中食」や「外食」を利用する機会が増えており、ライフスタイルの変化に伴う「タイパ（タイムパフォーマンス）』の追求」が、結果として食料費の割合を高めているという側面もあると考えられます。

【食料品価格の今後の動向】

足もとでは、昨年に比べ米などを中心に食料品価格の上昇率は低下傾向にありました。一方で、中東情勢の影響により原油やＬＮＧなどの供給懸念が表面化してきており、製造や輸送などのコストや、石油化学製品の原料であるナフサ不足の懸念による包装資材コストなどの上昇が、食料品価格を再び押し上げるリスクが高まっています。食料品の値上げは今後も続いていくことが予想され、家計への影響を注視していく必要があるものと考えられます。